

「社会保障・税一体改革」をやめさせ、応能負担で社会保障の拡充を！

ほっかいどうの社会保障

2012年3月2日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

いよいよ明日 ストップ消費税増税！増やせ社会保障！の声を

誘い合って参加しましょう 集会・パレードは1時30分～ 自治労会館



いよいよ明日は、3.3「ストップ消費税増税！増やせ社会保障！」集会・パレードの日です。多くの団体が参加目標も決めて参加者の組織と当日の準備を進めています。

桃太郎や雛人形にふんする参加者 うちわやタペストリー タンバリンも用意要求を書き込んだ「うちわ」、「タペストリー」、横断幕、大型ポスター、ノボリ、プラカードなども用意して参加を準備しています。タンバリンを準備しているところもあります。当日は、桃太郎やひな祭りの日に合わせておひなさまに扮して参加する方、カエル君なども参加予定です。



「一言アピール」 20代の母親がお子さんと一緒に生保問題、20代の保育士さんも

集会での「一言アピール」は、先日お知らせした医療ソーシャルワーカーの田村さんに続き、5名が決まりました。20代の保育士さんから「保育の劣悪な実態や公的保育の改悪の動き」、生活保護問題でも20代の母親がお子さんと一緒に「生活保護行政の実態とその改善」を訴えます。

介護の職場からは、「劣悪な労働実態と問題の多い介護制度の改善」について。消費税問題では、中小業者の代表が「今でも消費税で苦しんでいる実態」、高齢者から「年金の引下げや消費税増税では生活していけない」などのアピールが予定されています。それぞれの思いを集会・パレードに参加してアピールしましょう。

痛ましい事件が二度と起きないように 障道協が市へ要請



3月1日、障道協（障害者の生活と権利を守る北海道連絡協議会）は、札幌市に対して「障害者・家族の立場から白石区姉妹孤立死についての要望書」を提出しました。

大井会長（写真左）は「15年前にも知的障害を持つ子と二人で暮らしていた母親が亡くなり、残された子が食事などを作れず自死したことがありました。障害者制度の見直しが必要」とあいさつしました。榛葉事務局長は、要請書の内容を説明。「施設から地域へと積極的に進められていますが、地域の支援体制も少なく本人や家族に過度な負担がかかっている」と、①早急な実態調査、②相談先などの情報が確実に伝わるしくみ、③市としてショートステイ、グループホームの増設などを要望しました。

障害を持つ娘さんと暮らす母親も切実な訴え

40代の知的障害を持つ娘さんと暮らす母親は、「ニュースを聞いてから眠れない夜が続いています。まだこの話題を家族で口にしたことはありません。あまりに重い問題です。今でも障害者に対する姿勢は冷たく精神的疲れも多いです。私も年を重ねていて子どものことが心配です。知的障害者は心がやさしいです。いとおしい。こうした事件を、どうすると防げるか行政も考えてほしい」と訴えました。

市の障がい福祉課長（写真右）は「行政に関わる者としていろいろ施策を考えたい。皆さんの要望も読ませていただいて検討したい」と話しました。市では、知的障害のある方（療育手帳の交付を受け18歳以上で公的サービスを受けていない方・約1400名）を対象に調査をしています。集約日は3月2日です。

10月27.28日 札幌市で全国クレ・サラ被害者交流集会 夏にはキャラバンも

3月1日、10月27.28日、札幌市で行われる「全国クレジット・サラ金・ヤミ金被害者交流集会」の現地実行委員会が結成されました。

クレサラ対策協議会代表幹事の木村達也弁護士が講演。「初めは借り手の責任と言われたが、業者が加害者と変わり法改正もさせた。サラ金業者も少なくなり1300万人いた多重債務者も大幅に減少。多重債務問題の解決は貧困問題の解決が必要」と強調。パチンコ依存症の取り組みも紹介し「当事者も含めた自己獲得型の運動が必要。偏見を克服するため、自殺→自死、生活保護→生活保障、格差→絶対的平等など使う言葉も変える必要がある」と説明しました。7月には全国キャラバンも予定。

